

## 東海道～山陽新幹線300系のバリアフリー設備の覚え書き

(2014年3月作成)

©作成・半沢一宣(はんざわ・かずのり)

\* 2012年3月16日限りで営業運転を終了した車両の記録です。

300系は東海道新幹線のスピードアップ(0系・100系の時速220キロから時速270キロへ)を目的として、1992年に登場した車両です。

登場当初は「のぞみ」として運転されていましたが、後に「ひかり」「こだま」としても運転されるようになりました。

0系や100系のような短編成化改造は行われず、すべて16両編成のままで引退していきました。

車いす対応座席(次ページの配置図で「H」と表記)

11号車の12番AB席(太平洋・瀬戸内海側)が車いすからの乗り移りに便利なよう肘掛けを跳ね上げることができる構造になっていて、車いす固定用の設備もあります。

またデッキ寄りの13番AB席が介助者用の席として、12番AB席と共に一般席とは別枠で管理されています。

多目的室(次ページの配置図で「M」と表記)

改良型ハンドル式電動車いすには対応していない構造のものが、11号車の東京寄りにあります。(富士山・玄界灘側)

車いす対応トイレ(次ページの配置図で「W」と表記)

11号車の東京寄りに車いす対応構造のトイレがあります。

ただし、ベビーベッド(おむつ交換台)、ベビーチェア、オストメイト用設備などを併設した多機能型ではありません。

洗面所

11号車の東京寄りに車いす対応構造のものがありません。

公衆電話(次ページの配置図で「p」と表記)

12号車の博多寄りにありますが、車いす対応構造と言えるかどうかは微妙です。

飲料自動販売機

設置されていません。

受動喫煙の発生状況

10号車・15号車・16号車の3両が喫煙車です。

これらの隣の車両では、人が通り抜けるとき自動ドアが開くたびに、および空調装置を介してたばこ煙が流れ込むことによって受動喫煙が発生していることが、営業列車での粉じん濃度測定調査によって判明しています。

乗車・調査の実施記録

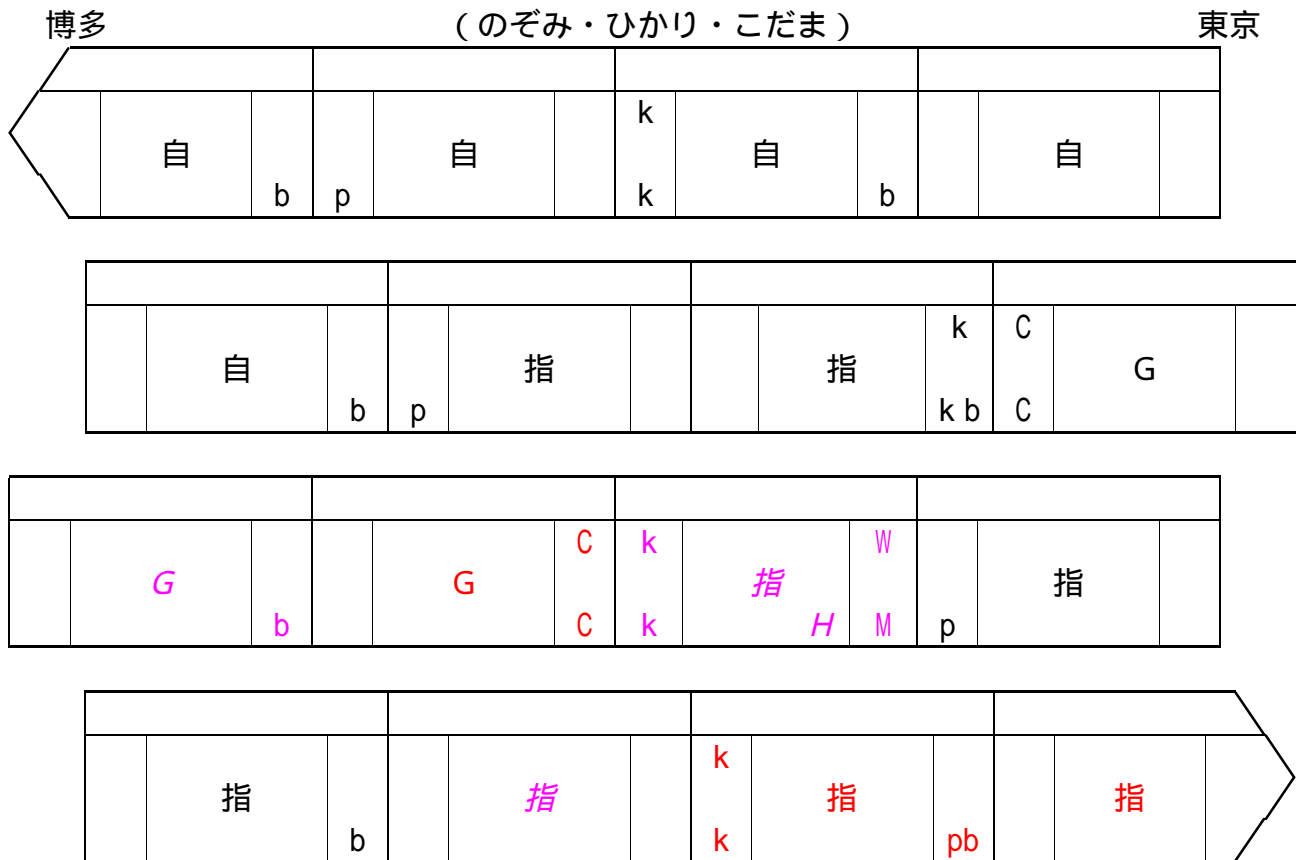
2011年1月3日(月曜日)東京6時26分発新大阪ゆき「ひかり501号」

(全区間を11号車12番A席に乗車)

車両番号・11号車=325-3707

(JR西日本F7編成、製造年・メーカー名は未確認)

300系の車内設備の配置図  
(指定席/自由席の区分は「ひかり」の場合を示しました)



凡例

- 指 = 普通車指定席      自 = 普通車自由席      G = グリーン車
- H = 車いす対応座席      M = 多目的室
- W = 車いす対応トイレ(ベビーベッド無)
- w = 車いす非対応トイレ(ベビーベッド無)
- P = 公衆電話(車いす対応)      p = 公衆電話(車いす非対応)
- V = 飲料自動販売機(車いす対応)      v = 飲料自動販売機(車いす非対応)
- C = 車掌室      k = 車内販売準備室
- = A E D (自動体外式除細動器)

細字 = 受動喫煙が発生していない清浄な空気の禁煙車

斜字 = 受動喫煙が発生している禁煙車

(喫煙車または喫煙コーナーに隣接している車両と喫煙ルームがある車両が該当)

太字 = 座席で喫煙できる車両(いわゆる喫煙車)



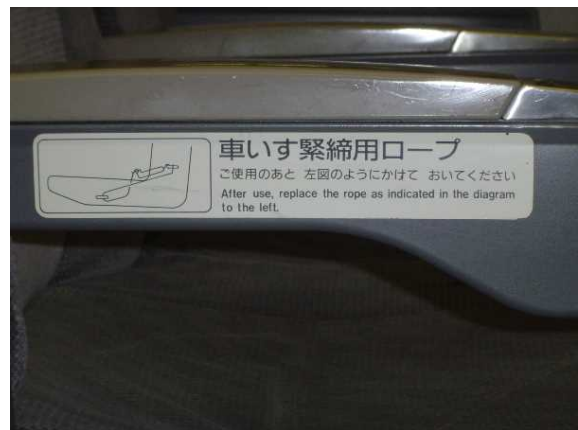
J R東海・J R西日本300系



300系の多目的室を車外から見たところ



300系11号車の車いす対応座席  
車いす対応設備があるのは  
右側の12番A B席のみ



300系の車いす対応座席の  
車いす緊締用ロープの使用案内  
0系・100系での説明文も同一



300系11号車の多目的室



300系11号車の多目的室の案内掲示



300系11号車の車いす対応トイレ



300系11号車の車いす対応洗面所



300系12号車の公衆電話  
テレホンカード自動販売機の上部の壁に  
列車名表示器が設置されている